

新社長

厚板溶断業の深江鎔断（本社・大阪市東成区）の社長に昨年10月1日付で就任した。「新規取引先を増やし、売上高年間2億円を早期に達成したい」と抱負を語る。同社は関西地区厚板溶断業大手の菰下鎔断の子会社。深江鎔断は約40年前に菰下鎔断の従業員が独立して設立。7年前に菰下鎔断が完全子会

普の社長となるのは非常に驚いている」としながらも「旗下社長からは『スピード感を持ち、経営者目線を培い、金銭の流れや損得の考え方を養ってほしい』と後押しされた。責任感とやりがいを持つ

開先機を1台ずつ有する。月産扱い量は約100㌧。「当社は長年取引関係にある会社もあるが少なく、旗下鎧断の外注加工の比率が高い。新規開拓で自販比率を伸ばしていくた

断からの母材調達に使用している。3トン車を活用して小回りの効いた自社配送に磨きをかけたい。端材を生かした販売方式と即納体制を武器に地域密着型の「泥臭く足で稼ぐ」営業を展開していく」と意気込む。「安全第一のもと従業員の幸せを追い求めたい。そのた

（綾部 翔悟）



年商2億円を早期達成

「神経質な部分もあるので『何事も何とかなる』をモットーにしている」と笑う。

社化し、菰下茂夫菰下鉛断社長が深江鉛断の社長も兼務していた。その後、菰下社長が若手に経験を積ませるべく、主に堺市内の営業を担当している京氏には11人。母材の厚板は白羽の矢が立つた。「入社3年目でグルーで、深江鉛断を菰下グループから期待されるような会社に成長させたい」と語る。

い」とする。

めにも増益を目指し、3年以内に現行からボーナスを0・5カ月増やしたい」とする。趣氏は最近始めたゴルフとテレビゲーム。高校、大学はラグビー部（ポジションはナンバー8）で汗を流した。

地域密着型の「泥くさく足で稼ぐ」営業を展開